

2024年2月26日

2023年度聖路加国際大学大学院看護研究科修士論文

認知症高齢者を自宅で看取った配偶者の
経験とそのプロセス：Modified Grounded Theory Approach
Spouse's Experience of Dying Process of Older Adult Partner with
Neurocognitive Disorder on End-of-Life Care at Home: Modified
Grounded Theory Approach

22MN018

白坂 宏美

要旨

【目的】認知症高齢者を自宅で看取るまでの配偶者の経験と夫婦関係の変化、その過程で受けた専門職・非専門職による支援を配偶者の視点から記述することを目的とした。

【方法】認知症高齢者を自宅で看取った配偶者に半構造化インタビューを行う質的探索的研究である。対象者は通算6か月以上自宅で認知症と診断された夫/妻を介護し、看取りを行った配偶者11名であった。対象者1名につき1回60分程度のインタビューを行い、得られたデータを、修正版グランデッド・セオリー・アプローチを用いて分析した。本研究は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号: 23-A013)。

【結果】分析テーマを「夫/妻が認知症と診断されてから看取るまでの夫婦関係変化のプロセス」、分析焦点者を「認知症と診断された夫/妻を自宅で看取った配偶者」と設定した。分析の結果、《私と私の中のあなた》というコアカテゴリーと、【】で囲まれた3カテゴリー、8サブカテゴリー、30概念が生成された。

「私」は認知症と診断された「あなた」の病状合わせながら2人の生活が続くよう【毎日1日を大切に】している。日々に目標を持つことに加え、「私」の内から湧き上がる感情と周囲との関係性や介護サービスを利用し、両方から支えられ【私を保】っている。10年ほど続くこの日々で「あなた」は徐々に出来ないことが増え、死に向かう。この過程で、「私」は「あなた」ならこう考えるという「対象化したあなた」を根拠に代理意思決定をし、【あなたと1つになって添い遂げ】ていく。「私」と「対象化したあなた」双方が納得できる最期を迎えられるかで、看取りの評価は異なる。3カテゴリーが欠けることなく相互に影響し合うことで夫婦関係は《私と私の中のあなた》になっていく。夫婦という関係性は存在の拠り所であり、配偶者にとってケアの原動力であり、代理意思決定の根拠となる一方で、死別は自己の喪失に繋がる可能性が示された。そのため夫婦の関係に着目した支援と診断早期から拠り所を増やす支援の必要性が示唆された。また、配偶者は専門職・非専門職の支援に対し、どちらにも病も含めた「私とあなた」の受容と相互的な関係性の構築を望み、さらに専門職には専門技術の提供、非専門職には踏み込みすぎない精神的な支援というそれぞれに違う支援を期待していることが示された。

【結論】自宅で認知症高齢者を看取った配偶者の夫婦という関係は、存在の拠り所であり、ケアの原動力や決断の根拠である。そのため関係性に着目し寄り添う支援と死別後に備え診断早期からの存在の拠り所を増やす支援が必要である。配偶者の望むの支援には、専門職への関係性に着目する教育や介護者や周囲の人々への指導の必要性が示唆された。